

組織的な大学院教育改革推進プログラム 平成19年度採択プログラム 事業結果報告書

教育プログラムの名称	: 地域ケアを担う Ph.D. 臨床栄養師の養成 -病院と地域をつなぐ管理栄養士のエキスパート教育プログラム-
機関名	: 大阪市立大学
主たる研究科・専攻等	: 生活科学研究科生活科学専攻 食・健康科学コース
取組代表者名	: 羽生 大記
キーワード	: フードマネジメント、食生活の評価、保健栄養、地域福祉、健康・福祉工学

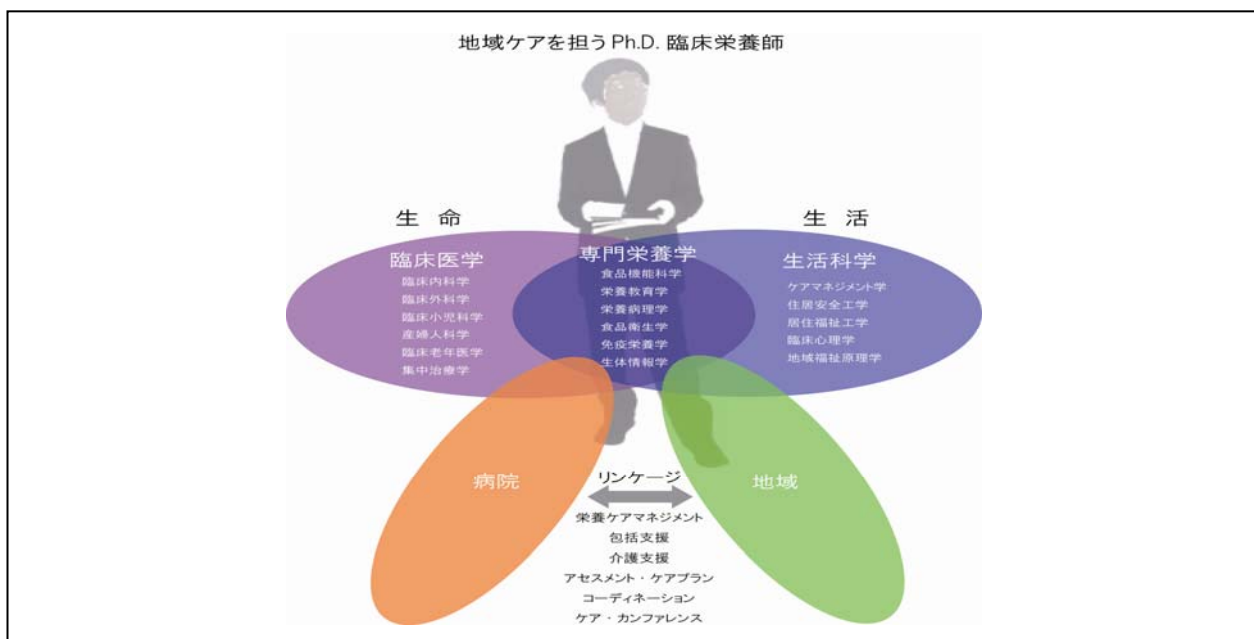
I. 研究科・専攻の概要・目的

生活科学研究科 食・健康科学コースの人材養成目的は、大阪市立大学学則及び同学位規程に基づき、「**大阪市立大学大学院生活科学研究科履修規程**」に以下のように明記している。**前期博士課程**は、生活における食栄養学的課題に適切に対応できる高度な専門知識と技能を有する人材を育成し、食栄養学分野の高度専門性を要求される様々な分野で活躍できる人材を養成することを目的とする。**後期博士課程**は、生活における食栄養学的課題を自立して解決できる高い研究能力を有し、大学、研究所、病院、保健所などの最前線で活躍できる人材を育成することを目的とする。本目的に沿って、多彩な専門領域を有する教員が少人数の大学院生に対して密接に指導する教育体制を取っている。

II. 教育プログラムの概要と特色

わが国において欧米諸国と同レベルの臨床栄養師を育成するべく、管理栄養士を広く大学院に受け入れ、栄養学の専門家として十分な**専門栄養学**、**臨床医学**を習得させるとともに、チーム医療を栄養面から担う基礎知識として、幅広く系統的に**臨床栄養学**を学ぶプログラムを実施した。

管理栄養士としてのスキルアップは実務家として必須で、**Nutrition Support Team (NST)**が整備された**大学附属病院**での**臨床インターン研修**を十分に積んだ。また**地域ケア**のフィールドで**実践的な臨床インターン研修**を積ませた。更に**臨床栄養学的課題を科学的に解析**し、基礎的学問分野に還元して論文化するプロセスを学び、**博士の学位**を取得させるべくプログラムを展開中である。



Ⅲ. 教育プログラムの実施結果

1. 教育プログラムの実施による大学院教育の改善・充実について

(1) 教育プログラムの実施計画が着実に実施され、大学院教育の改善・充実に貢献したか

わが国の管理栄養士養成課程を持つ大学の大学院は、その設立経過から、農学、家政学を基盤に持つ大学、大学院が大半で、教員も農学、家政学や理学部のなど出身の基礎科学を専門にする場合がほとんどである。現行の大学院も化学、生物学など基盤にする基礎研究をテーマにする教室が大半である。従来の大学院では、院生時代は基礎実験に終始し、実務に就いた際に求められる知識、経験との関連性があまりにも希薄で、有能な管理栄養士を育成するという観点からは、大学院が貢献できていなかったのが現状であった。当プログラムは、将来病院で活躍する管理栄養士が進学する大学院として、臨床栄養学をテーマにしたわが国最初の大学院である。そこで、本プログラムは臨床栄養学に精通した管理栄養士を養成することに主眼をおき、臨床現場における医学的知識、経験を涵養することに多くに時間を割いた。医学部の全面的協力により、医学生4回生の臨床系統講義を受講し、また医学部5回生、6回生とともに bed side learning に参加し、臨床医学的知識の系統的習得に努めた。また、学部教育では2週間に過ぎなかった病院実習を修士課程2年間継続することで、病院における日常臨床に精通することができた。大学附属病院にのみならず、市立総合医療センターなど高次機能病院や、市民病院や地域中核病院などの中規模病院のNSTでも継続的に研修し、多様な病院における臨床栄養学的課題に触れ、その実際的な解決策を学んだ。またリハビリに特化した病院、老健施設、訪問看護ステーションなどとも連携して研修させていただき、病院のみでない、地域に密着した介護現場における臨床栄養学的課題を知ることができた。その研修の中で見つかった臨床栄養学的課題で、修士論文を執筆することが可能であった。本プログラムによって、将来病院や老健施設などの現場で管理栄養士として働くことを念頭においている学生にとって、自らのキャリアにとって有益な経験、知識を習得しつつ、学位取得も可能な大学院が成立しえることを示した意義は大きい。キャパシティの問題で本プログラムの履修生の数は限定されているが、他大学の多数の学生から当該大学院への進学希望、問い合わせがあることも、当該プログラムへの一定に需要があることを示している。また、当プログラム履修生以外の本大学院生からも多数の当プログラムの一部授業、実習への参加希望があることも、管理栄養士にとって臨床的知識、経験を得ることの重要性が浸透しつつあることを示している。



地域の健康相談会に参加



老健施設での実習

2. 教育プログラムの成果について

(1) 教育プログラムの実施により成果が得られたか

当プログラムに含まれ、実施され、成果を挙げた具体的事項を以下に列挙する。

I. 臨床医学に強い管理栄養士の育成を目指して

1. 医学部の臓器別系統講義の受講、2. 大学附属病院での病棟回診（消化器、肝胆膵）での研修、
3. 大学附属病院での NST カンファレンス実習、4. 市大病院の NST 勉強会での発表、5. 十三市民病院、NSTでの研修、6. 十三市民病院糖尿病教室参加、7. 大阪市立総合医療センターでの NST 研修、8. 大阪市立総合医療センターでの病棟回診研修、9. 個人栄養相談実習に向けた臨床心理学事例研究法受講、10. 医学部スキルシュミレーションセンターでの研修、11. 近森病院（高知市）における実地研修

II. 地域における栄養管理の担い手を目指して

1. 老健施設での実習、2. 駒川商店街健康祭りに参加、3. 南大阪包括ケアフォーラム参加、発表、
4. 浪速NSTクラブでの活動、5. 大阪市大周術期連携への参加

III. 国際性に富む管理栄養士を目指して

1. 管理栄養士に対する英会話教室の実施、2. カナダNST研修

VI. 臨床研究を主導できる管理栄養士を目指して

1. 管理栄養士に係る臨床研究の試み、2. 日本静脈経腸学会アワードの受賞して

当該プログラムに参加している院生は、上記の多彩な試みに参加し、臨床栄養学的知識、経験、スキルを身に付け、その成果を種々の学会、学術研究会などにて発表した。

V. 大学院生の研究業績

平成 19 年度

〔著書〕

1. 田嶋佐和子：テレメンタリング—双方向ツールによるヘルスケア・コミュニケーション（共著）；日本遠隔医療学会編、中山書店
2. 田嶋佐和子：糖尿病患者のためのカーボカウント完全ガイド：坂根直樹編、（共著）；医歯薬出版

〔国内学会会議録〕

1. 北岡陸男，田中宏明，砂畑桂，西村亜弥，松一正，堀田由樹，山崎慶子，赫祐子，藤崎ゆかり，西川和子，大場一輝，福田隆． 栄養管理計画書に基づくNST活動について（会議録）． 第2回近畿NST研究会抄録集 p1
2. 遠藤隆之，岩谷聡，大野和浩，丹治恵子，藪さこ恒夫． 当院における半固形化短時間投与法の施行目的と

予後からみた課題(会議録). 静脈経腸栄養)23 巻 1 号 Page362(2008.01)

3. 田嶋佐和子、小崎篤志ほか. 糖尿病患者の食行動が HbA1c に及ぼす影響. 第 50 回日本糖尿病学会
4. 松岡幸代、田嶋佐和子、坂根直樹ほか. 耐糖能異常を伴う肥満者においてフォーミュラ食併用療法が減量と血糖コントロールに及ぼす影響：ランダム化比較試験. 第 50 回日本糖尿病学会. 糖尿病 Vol.50 No.5 2007
5. 田嶋佐和子、木村穰. CCU と循環器病棟の連携および患者教育における栄養士の役割. 第 13 回日本心臓リハビリテーション学会パネルディスカッション
6. 高木久見子、田嶋佐和子、福田正子、木村穰、宮内拓史、斉藤瞳、浦上昌也、岩坂壽二. 肥満外来における介入前後の食品群別摂取量の変化 FFQ による検討(第 1 報). 肥満研究(1343-229X)13 巻 Suppl. Page278(2007.09)
7. 田嶋佐和子、福田正子、木村穰ほか. 食品群別摂取量の変化が腹囲および HOMA の変化に及ぼす影響～肥満外来における F おける検討 (第 2 報). 第 28 回日本肥満学会. 肥満研究(1343-229X)13 巻 Suppl. Page278(2007.09)
8. 松岡幸代、田嶋佐和子、坂根直樹ほか. L-カルニチン含有フォーミュラ食を用いた栄養指導による減量効果：食行動と空腹感に着目した検討. 第 28 回日本肥満学会肥満研究(1343-229X)13 巻 Suppl. Page222(2007.09)
9. 宮内拓史、木村穰、上田加奈子、高尾奈那、中山英恵、柳田優子、岡下さやか、田嶋佐和子、齋藤瞳、小崎篤志、岩坂壽二. 肥満治療におけるレジスタンストレーニング効果の検討. 肥満研究(1343-229X)13 巻 Suppl. Page298(2007.09)
10. 田嶋佐和子、木村穰. 食事療法とサプリメント～アセスメントとその活かし方～. 第 29 回日本臨床栄養学会第 28 回日本臨床栄養協会大連合大パネルディスカッション. New Diet Therapy(0910-7258)23 巻 2 号 Page125(2007.10)
11. 同道正道、田嶋佐和子、松井浩、佐野喜子、川口きみこ、中村伸一、坂根直樹. 国保ヘルスアップモデル事業 働き盛り世代の生活習慣改善に有効なプログラムの開発. 地域医療第 46 回特集 Page193-196.2007
12. 堤博美、木村穰、上田加奈子、高尾奈那、宮内拓史、田嶋佐和子. 若年者でのインスリン抵抗性におよぼす体力、動脈硬化危険因子の検討. 日本臨床スポーツ医学会誌(1346-4159)15 巻 4 号 PageS141

[学術講演]

1. 北岡陸男. 講演： 経腸栄養について. なにわNST 倶楽部主催日本静脈経腸栄養学会認定NST 専門療法士教育カリキュラム. 2007/4/21 医誠会城東中央病院
2. 北岡陸男. パネルディスカッション： 栄養療法をすすめる上での地域連携 続編. 第 7 回なにわNST 倶楽部. 2007/6/28 味の素グループ大阪ビル
3. 北岡陸男. 講演： 経腸栄養について. なにわNST 倶楽部主催日本静脈経腸栄養学会認定NST 専門療法士教育カリキュラム. 2007/6/30 医誠会城東中央病院
4. 北岡陸男. 講演： 経腸栄養について. なにわNST 倶楽部主催日本静脈経腸栄養学会認定NST 専門療法士教育カリキュラム. 2007/8/11 医誠会城東中央病院
5. 北岡陸男. パネルディスカッション： 部署間・病院間のコミュニケーションの充実. 第 9 回なにわNST 倶楽部 2007/10/27 味の素グループ大阪ビル
6. 田嶋佐和子. 講演：「健康的にやせるための食事のコツ」：和歌山市健康セミナー 和歌山市保健所 3 階大ホール 2008/3/18

平成 20 年度

〔原著・論文〕

1. 荒金 英樹, 西村 敏, 兼子 裕人, 仁丹 裕子, 浦底 美由希, 増田 哲也, 北岡 陸男, 廣瀬 遼子. TPN、EN中に発症した銅欠乏症による好中球減少症の一例. 日本静脈経腸栄養学会誌 静脈経腸栄養 2008 Dec;23 (4) : 643-7
2. 田嶋佐和子, 佐野喜子, 同道正行, 中村伸一, 坂根直樹. カメラ付き携帯電話を用いた個別健康支援プログラムの効果: メール投稿数による検討. 肥満と糖尿病 ver. 6 別冊 27-32, 2007 「第 6 回糖尿病情報学会論文誌」
3. 田嶋佐和子, 木村穰. 生活習慣病予防のための運動に対する栄養学的配慮. Functional Food vol.2 No.3 289-294, 2008
4. 松岡幸代, 田嶋佐和子, 坂根直樹ほか. 「フォーミュラ食を用いた減量の効果を規定する要因の検討」. 「肥満研究」 Vol.14 NO.3 220-225 2008
5. 三宅眞理, 田嶋佐和子, 西山利正ほか. ヘルスツーリズムからみた生活習慣病対策. 臨床スポーツ医学 vol.25.No2 147-155 2008
6. 高尾奈那, 田嶋佐和子, 木村穰ほか. 肥満減量時のインスリン抵抗性の改善に及ぼす体組成の影響 - DEXA法での検討 - . 心臓リハビリテーションvol.13. No2 374-276 2008
7. 田嶋佐和子. 食品交換表の理解を助けるために ホームページを用いた在宅管理支援システム 画像評価による栄養指導を中心に. 糖尿病ケア 5 巻 3 号 Page236-241. 2008

〔国際会議会議録〕

1. Sawako Tashima, Yutaka Kimura, Evaluation of an analysis system of insufficient nutrient with questionnaire for subjective symptoms, 15th International Congress of Dietetics

〔国内学会会議録〕

1. 北岡陸男, 田中宏明, 砂畑桂, 西村亜弥, 松一正, 堀田由樹, 山崎慶子, 赫祐子, 藤崎ゆかり, 西川和子, 大場一輝, 福田隆. NST活動の問題点とスクリーニング方法の検討 第2報(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)24 巻 1 号 Page316(2008. 02)
2. 香西瑞穂, 宮永美音子, 石飛満里子, 堀田由樹, 北岡陸男, 藤崎ゆかり, 田中宏明, 福田隆. PEG地域連携クリニカルパスの取り組み-PEG患者サポートシステムを導入して- 第9回日本クリニカルパス学会誌 P355
3. 遠藤隆之, 植田紀秀, 岩谷聡, 大野和浩, 丹治恵子, 裴正寛, 藪さこ恒夫, 鎌田紀子, 森川浩康, 羽生大記. 術前の栄養評価と予後との関連性に関する検討(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)24 巻 1 号 Page453(2009.01)
4. 羽生大記, 下谷祐子, 林史和, 遠藤隆之, 鎌田紀子, 森川浩安, 灘井城, 服部俊一, 倉井修. 消化器病棟におけるSGAの有用性と問題点(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)24 巻 1 号 Page292(2009.01)
5. 大野和浩, 遠藤隆之, 岩谷聡, 植田紀秀, 丹治恵子, 藪さこ恒夫. 生体電気インピーダンス法(BIA法)を用いた肝硬変患者の浮腫の評価(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)24 巻 1 号 Page284(2009.01)
6. 岩谷聡, 遠藤隆之, 植田紀秀, 大野和浩, 丹治恵子, 裴正寛, 藪さこ恒夫, 鎌田紀子, 森川浩康, 羽生大記. 大阪市南部における高齢者地域栄養ケアへの取り組み-南大阪包括ケアフォーラム-. 日本病態栄養学会第12回年次集会抄録集 p11
7. 田嶋佐和子, 小崎篤志ほか. 腹囲の減少およびHOMAの改善に及ぼす食品群別摂取量の影響~肥満外来におけるFFQの結果による検討~. 第51回日本糖尿病学会
8. 田嶋佐和子, 木村穰ほか. 動脈硬化性疾患管理における栄養指導の有効性. 第14回日本心臓リハビリテー

シオン学会

9. 田嶋佐和子、高尾奈那、中村伸一、坂根直樹、木村穰ほか. 携帯電話を用いた生活習慣病予防プログラムの検討～福井県おおい町を大阪から支援する遠隔プログラムの試み～. 第8回糖尿病教育資源共有機構年次学術集会
10. 田嶋佐和子、木村穰. 包括的心臓リハビリテーションを考える～外来におけるサクセスフル栄養指導を求めて～. 第30回日本臨床栄養学会第29回日本臨床栄養協会大連合大会パネルディスカッションNew Diet Therapy24 巻号 Page
11. 田嶋佐和子、木村穰ほか. ITによる個別行動目標設定・自動モニタリングシステムの減量効果～従来型保健指導との比較～. 第29回日本肥満学会
12. 立川芳子, 田嶋佐和子, 木村穰ほか. 生活習慣特性が体格・生化学指標に及ぼす影響 - 第1報 -. 日本栄養改善学会近畿地方会
13. 田嶋佐和子, 立川芳子, 木村穰ほか. 生活習慣特性が体格・生化学指標に及ぼす影響 - 第2報 -. 日本栄養改善学会近畿地方会
14. 福田正子, 田嶋佐和子, 堤博美, 浦上昌也, 木村穰. 体脂肪率に及ぼす食生活習慣の影響. 総合健診(1347-0086)35 巻1号 Page190(2008)

〔学術講演〕

1. 北岡陸男. 講演：もしもメタボと呼ばれたら. 医誠会城東中央病院 公開医学講座. 2009/1/11 医誠会城東中央病院
2. 北岡陸男. 講演：もしもメタボと呼ばれたらパートII. 医誠会城東中央病院 公開医学講座. 2009/3/4 医誠会城東中央病院
3. 北岡陸男. 講演：経腸栄養について. なにわNST倶楽部主催日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士教育カリキュラム. 2008/5/17 医誠会城東中央病院
4. 北岡陸男. パネルディスカッション：地域での栄養管理について. 第10回なにわNST倶楽部 2007/7/5 味の素グループ大阪ビル
5. 北岡陸男. シンポジウム：栄養管理と地域連携. 日本ダイエティシヤン研究会in Osaka. 2008/9/18 味の素グループ大阪ビル
6. 遠藤隆之. 一般演題：カナダにおけるNST研修. 第3回大阪市立大学栄養・介護セミナー. 2008/11/23 味の素大阪支社ビル
7. 木村穰, 田嶋佐和子, 上田加奈子, 斉藤瞳. ITおよび行動医学に基づく生活指導の実際. 第4回ITを活用した特定保健指導のためのテレメンタリング研修会. 日本遠隔医療学会主催. 2008/8/4
8. 田嶋佐和子. シンポジウム：「認知行動療法的アプローチによる肥満チーム治療」. 第10回内分泌糖尿病心理行動療法研究会 2008/11/1

平成 21 年度

〔著書〕

1. 田嶋佐和子. 糖尿病医療スタッフのための実践!カーボカウント (共著); 医歯薬出版
2. 田嶋佐和子. 経腸栄養剤ハンドブックAtoZ (共著); 南江堂
3. 田嶋佐和子. 経腸栄養剤の種類と選択 改訂版—どのような時、どの経腸栄養剤を選択するべきか - 改訂版 - (共著); メディカ出版
4. 田嶋佐和子. 医療における心理行動科学的アプローチ 糖尿病・ホルモン疾患の患者と家族のために (共著); 新曜社

〔原著・論文〕

1. 田嶋佐和子、高尾奈那、中村伸一、坂根直樹、木村穰ほか. 携帯電話を用いた生活習慣病予防プログラムの検討～福井県おおい町を大阪から支援する遠隔プログラムの試み～. 肥満と糖尿病 vol.8 別冊

2. Saito H, Kimura Y, Tashima S, Takao N, Nakagawa A, Baba T, Sato S. Psychological factors that promote behavior modification by obese patients. *Biopsychosoc Med*. 2009 Sep 25;3:9.

〔総説〕

1. 羽生大記, 結川美帆, 林史和. NASH/NAFLDの成因・発症メカニズム; 栄養素異常. *臨床栄養* 2010 印刷中.

〔国内学会会議録〕

1. 北岡陸男, 田中宏明, 砂畑桂, 松一正, 大場一輝, 福田隆. オリジナルSGAを利用したスクリーニング方法の検討(会議録). *静脈経腸栄養*(1344-4980)24 巻 1 号 Page259(2009. 01)
2. 香西瑞穂, 宮永美音子, 石飛満里子, 堀田由樹, 北岡陸男, 藤崎ゆかり, 田中宏明, 福田隆. PEG地域連携クリニカルパスの取り組み～PEG患者サポートシステムを導入して～(会議録). *静脈経腸栄養*(1344-4980)24 巻 1 号 Page364(2009. 01)
3. 北岡陸男, 砂畑桂, 西村亜弥, 石生差紗千, 田中宏明, 松一正, 堀田由樹, 藤崎ゆかり, 大場一輝, 福田隆. 食道癌術後患者に対し実施した栄養管理のピットフォール第(会議録). 12 回日本病態栄養学会学術集会演題抄録集 p 191
4. 山崎慶子, 平見千明, 北角修作, 田中弘明, 北岡陸男, 嚙下評価クリティカルパス(会議録). 第 11 回日本医療マネジメント学会学術総会抄録 p 337
5. 北岡陸男, 田中宏明, 砂畑桂, 西村亜弥, 福田隆, 大場一輝, 西口幸雄. 大阪市東北部における地域連携栄養管理(会議録). 第 11 回日本医療マネジメント学会学術総会抄録 p 303
6. 田中宏明, 北岡陸男, 西村亜弥, 香西瑞穂, 土増聡, 福田隆, 大場一輝, 塚田定信, 大平雅一, 西澤良記. 大学病院との周術期栄養連携による栄養管理の取り組みについて(会議録). 第 9 回日本クリニカルパス学会学術誌 p 449
7. 結川美帆, 永島樹理, 土肥慎二, 森本彩希, 吉尾美沙, 北岡陸男, 中村吉博, 下谷祐子, 林史和, 遠藤隆之, 田嶋佐和子, 百木和, 羽生大記, 植田紀秀, 岩谷聡, 黒川直美, 藪さこ恒夫, 金鎬俊, はい正寛, 田中宏. 前期高齢者と後期高齢者の栄養アセスメントの比較. *日本病態栄養学会第 13 回年次集会抄録集 Page152(2010.01)*
8. 下谷祐子, 林史和, 遠藤隆之, 北岡陸男, 中村吉博, 結川美帆, 田嶋佐和子, 百木和, 鎌田紀子, 森川浩安, 服部俊一, 灘井城, 倉井修, 羽生大記. 炎症性腸疾患患者における栄養状態および生活習慣の検討(会議録). *静脈経腸栄養*(1344-4980)25 巻 1 号Page304(2010. 01)
9. 下谷祐子, 遠藤隆之, 土肥慎司, 永島樹理, 中村吉博, 林史和, 森本彩希, 結川美帆, 吉尾美沙, 百木和, 鎌田紀子, 十河光栄, 荒川哲男, 天野良亮, 井上透, 大平雅一, 服部俊一, 灘井城, 塚田定信, 羽生大記. 炎症性腸疾患(IBD)患者の入院時栄養評価とNSTにおける対応. *日本病態栄養学会第 13 回年次集会抄録集 p138*
10. 林史和, 下谷祐子, 遠藤隆之, 北岡陸男, 中村吉博, 結川美帆, 田嶋佐和子, 百木和, 森川浩安, 鎌田紀子, 服部俊一, 灘井城, 倉井修, 羽生大記. 慢性肝疾患患者における栄養状態と生活習慣の検討(会議録). *静脈経腸栄養*(1344-4980)25 巻 1 号 Page303(2010.01)
11. 遠藤隆之, 岩谷聡, 田中宏, 下谷裕子, 林史和, 百木和, 羽生大記. 一般演題: 術前の栄養評価と予後との関連性に関する検討. *日本メディカルダイエティシヤン研究会 2009 年抄録集 9 ページ*
12. 森本彩希, 黒川直美, 岩谷 聡, 遠藤隆之, 植田紀秀, 羽生大記, 百木和, 林史和, 下谷裕子, 土肥慎司, 永島樹理, 吉尾美沙, 大平雅一, 天野良亮, 井上透, 鎌田紀子, 森川浩安, 塚田定信, 服部俊一, 灘井城. 消化器病棟と消化器内科病棟におけるNST対象患者の比較検討. *日本病態栄養学会第 13 回年次集会抄録集 p162*
13. 遠藤隆之, 森本彩希, 植田紀秀, 岩谷聡, 黒川直美, 大野和浩, 丹治恵子, 裴正寛, 藪さこ恒夫, 酒部克, 井原歳夫, 田中宏, 下谷裕子, 林史和, 百木和, 羽生大記. 術前の栄養評価と予後との関連性に関する検討(会議録). *静脈経腸栄養*(1344-4980)25 巻 1 号 Page301 (2010 .01)
14. 大野和浩, 遠藤隆之, 植田紀秀, 岩谷聡, 丹治恵子, 藪さこ恒夫, 羽生大記. NST活動におけるアルブミン製剤使用数減少の取り組み(会議録). *静脈経腸栄養*(1344-4980)25 巻 1 号 Page385 (2010 .01)

15. 池井千夏,岩谷聡、遠藤隆之,植田紀秀,森本彩希,丹治恵子,大野和浩,黒沢秀夫,藪さこ恒夫,加藤愛祐美,辻景子,畠山浩子.嚥下障害患者に対する言語聴覚士介入による栄養摂取方法(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)25巻1号 Page449 (2010 .01)
16. 辻景子,畠山浩子,岩谷聡、遠藤隆之,植田紀秀,大野和浩,黒沢秀夫,池井千夏,森本彩希,丹治恵子,藪さこ恒夫,加藤愛祐美.嚥下障害患者に対する言語聴覚士介入による栄養摂取方法(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)25巻1号 Page481 (2010 .01)
17. 植田紀秀,磯野直史,宮下実,奥村裕之,岩谷聡,遠藤隆之,森本彩希,黒沢秀夫,丹治恵子,加藤愛祐美,大野和浩,藪さこ恒夫,池井千夏 重症脳卒中におけるEPA、GLA配合の高脂肪低糖質組成の経腸栄養材を用いた検討(会議録). 静脈経腸栄養(1344-4980)25巻1号 Page501 (2010 .01)
18. 田嶋佐和子,小崎篤志ほか. メタボリックシンドロームに及ぼす生活習慣因子の検討. 第52回日本糖尿病学会
19. 田嶋佐和子,木村穰,佐藤由起子. 自動測定機器を併用したWebによる減量プログラムの有用性. 第9回糖尿病情報学会
20. 田嶋佐和子,木村穰,羽生大記ほか. 肝臓患者における肝切除術前の栄養状態と食事摂取内容との関係. 第31回日本臨床栄養学会総会 第30回日本臨床栄養協会総会 第7回大連合大会
21. 田嶋佐和子,立川芳子,木村穰ほか. データマイニング手法を用いた生活習慣病予測のための問診票作成. 第31回日本臨床栄養学会総会 第30回日本臨床栄養協会総会 第7回大連合大会
22. 田嶋佐和子,木村穰ほか. 非肥満若年者のインスリン抵抗性と体組成との関係. 第30回日本肥満学会
23. 田嶋佐和子,木村穰,羽生大記ほか. 肝臓患者における肝切除術前後の代謝変動. 静脈経腸栄養(1344-4980)25巻1号 Page (2010 .01)

〔学術講演〕

1. 北岡陸男. 講演: もしもメタボと呼ばれたら. 医誠会城東中央病院 公開医学講座. 2009/3/4 ダイナガ産業株式会社
2. 北岡陸男. 講演: 経腸栄養について. なにわNST倶楽部主催日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士教育カリキュラム. 2009/5/13 医誠会城東中央病院
3. 北岡陸男. 講演: パネルディスカッション. 周術期栄養管理～受入れ病院の取り組み～. 第14回なにわNST倶楽部 2009/6/25 味の素グループ大阪ビル
4. 北岡陸男. ワークショップ: 症例から学ぶ周術期の栄養管理. 第31回日本臨床栄養学会総会 第30回日本臨床栄養協会総会 第7回大連合大会. 2009/9/18 神戸国際会議場
5. 下谷祐子,林史和,羽生大記. 発表: カナダにおける栄養士研修. ?肝臓病と栄養を考える会. 2009/1/15 ANAクラウンプラザホテル広島
6. 林史和,羽生大記. 発表: 慢性肝疾患患者の生活習慣調査. 肝と栄養の会. 2009/9/6 都市センターホテル
7. 林史和,結川美穂,中村吉博,下谷祐子 百木和,藤井英樹,小林佐和子,岩井秀司,森川浩安,田守昭博,坂口浩樹,河田則文,羽生大記. 発表: 慢性肝疾患患者の生活習慣調査. 大阪市立大学附属病院肝胆膵病態内科カンファレンス. 2009/11/12 天王寺都ホテル
8. 遠藤隆之. 一般演題: 消化器癌患者の術前の過栄養状態と予後との関連性に関する検討. 東住吉肝疾患ヘルスケアネットワーク. 2010/3/6 ホテルモントグラスミア
9. 遠藤隆之. 一般演題: 術前の栄養評価と予後との関連性に関する検討. 第10回泉州地区NST研究会. 2010/3/20 関西エアポートワシントンホテル
10. 田嶋佐和子. 心に届く栄養指導を目指して～アセスメントとコミュニケーションのバランスとは～. 第4回唐津心臓リハビリテーションフォーラム. 2010/2/26 唐津高齢者ふれあい会館りふれ

3. 今後の教育プログラムの改善・充実のための方策と具体的な計画

(1) 実施状況・成果を踏まえた今後の課題が把握され、改善・充実のための方策や支援期間終了後の具体的な計画が示されているか

当該プログラムは、当初の計画の理念に沿い、比較的順調にスケジュールを消化し、短期間に多くの成果を挙げることができた。その要因の最大のものは、“臨床現場に強い管理栄養士を育成する”というコンセプトに共感していただいた当大学医学部、附属病院栄養部を始めとする多くの病院、老健施設、訪問看護ステーションなどの献身的なご協力が得られたということである。本校には今後もこの理念の下、本プログラムを継続、発展させて行く社会的責任があると認識している。課題の最大のものは、当該プログラムで研修する院生数の増加に伴い、研修、実習をお願いしている受け手施設の負担増、キャパシティの限界があることである。参加施設の数を増やし、研修者のローテーション制を確立して、1施設への負担が増えすぎないように工夫をしている。

4. 社会への情報提供

(1) 教育プログラムの内容、経過、成果等が大学のホームページ・刊行物・カンファレンスなどを通じて多様な方法により積極的に公表されたか

本プログラムの取り組みは、大学ホームページに詳細に掲載され、閲覧者からの進学希望の問い合わせも多く、社会への広報の役割と、参加者増加の要因として機能している。また、現役の管理栄養士が主催される勉強会や、栄養士さん向けの研究会などを通じて当プログラムの内容を紹介し、栄養士教育のあり方に提言をした。この種の講演を聞かれた栄養士さんが、社会人院生として入学され本プログラムで研修された例もある（現在、3名の社会人院生が在籍中）。また当該プログラムの中核的研究会として“大阪市立大学 栄養・介護セミナー”を現在までに6回開催し、管理栄養士をはじめ、開業医、歯科医、病院看護師、訪問看護師、介護福祉士、理学療法士、言語聴覚療法士、ケアマネージャーなど多職種の方に参加してもらい、当該プログラムで得られた成果の発表や、問題点に対するパネルディスカッションなどの討論を通じて、広く社会に当プログラムの成果を還元し続けている。成果の一端は、平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」でも報告した。また3年間の支援期間の終了を期して、この間の活動のまとめを“活動報告書”の形で刊行、関係各施設に配布すべく、現在印刷中である。

5. 大学院教育へ果たした役割及び波及効果と大学による自主的・恒常的な展開

(1) 当該大学や今後の我が国の大学院教育へ果たした役割及び期待された波及効果が得られたか

本プログラムの最大の特徴は、管理栄養士という高度専門職業人が進学する大学院として、日本で初めての職能別大学院として機能を持たせた教育プログラムを提示したことである。従来の管理栄養士養成校の大学院は、わが国における同学部成立の歴史的経緯から、農学、家政学を基盤にしており、教員の多くも、農学部、理学部、家政学部出身の基礎科学者が大半を占めている。そこで、大学院における研究分野も基礎科学系の実験を主とする教室が多く、基礎学問の分野では多彩な成果を挙げてきているが、大学院卒業後、病院の管理栄養士として実務に就きたい希望者にとっては、大学院で学んだ基礎実験の技術、知識と、就職後医療現場で求められるスキル、知識、経験との相関性が乏しく、病院で管理栄養士として働きたいという希望と、大学院に進学してより高度な学問的修練をしたい希望とを両立させる場がなかった。欧米

では半世紀以上前から確立している“臨床栄養学”という学術分野が、わが国では大きく立ち遅れてきた。その大きな要因として、本分野の主要な担い手であるべき、学位を有する臨床栄養師の存在が絶無であったことが挙げられる。近年、病院における Nutrition Support Team (NST) への需要の高まりなど、従来の給食管理を専らとする管理栄養士のあり方は大きく転換し、病者の病状回復を栄養面からサポートし得る栄養管理のスペシャリストとして役割を担わなければならなくなった。かかる社会的要請を背景し、本プログラムは、栄養管理のスペシャリストとしての知識、技能、経験と、臨床現場での問題点の抽出、その解決法を論文化できる学術的素養を両立しえる人材を育てうる教育プログラムとして提案された。発足して3年と日が浅く、なお一層のカリキュラムの充実を期さねばならないが、わが国最初の試みとしての価値は少なくなく、本プログラムが一定の成果を挙げ続けることができれば、管理栄養士課程を有する大学院にフォロワーが出現し、わが国の臨床栄養を担う優秀な人材が増加することが期待される。

(2) 当該教育プログラムの支援期間終了後の、大学による自主的・恒常的な展開のための措置が示されているか

管理栄養士という高度専門職業人が進学する大学院として、日本で初めての職能別大学院として機能を持たせた教育プログラムを提示した本プログラムは、その性格上一過性に終了しては意味がなく、継続的に発展、展開していくことが社会的に求められるとの認識を有している。そこで、大学として本年度から“特色のある教育体制への支援事業”を教育推進本部において設置し、積極的な支援の継続を期している。また当該プログラムの発足当初から多大な協力をいただいて当大学医学研究科、医学部からも引き続き、当プログラム受講中の生活学研究院院生に対する医学部学部講義の聴講、医学部付属病院における臨床実地研修などの継続を認めていただいている。その他、関連の市立病院、老健施設、訪問看護ステーションなどの臨床施設も、引き続き研修の場を提供していただける由である。助成期間が終了し、海外病院研修などの経費に係るプログラムの継続は困難だが、多くのボランティア的支援に支えられて、“地域医療に貢献し得る栄養管理のエキスパートである臨床栄養師育成事業”を継続して行く所存である。

組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会における評価

【総合評価】
<p> <input type="checkbox"/> 目的は十分に達成された <input type="checkbox"/> 目的はほぼ達成された <input checked="" type="checkbox"/> 目的はある程度達成された <input type="checkbox"/> 目的はあまり達成されていない </p>
<p>〔実施（達成）状況に関するコメント〕</p> <p>「地域ケアを担う Ph. D. 臨床栄養師を養成するという教育プログラムの目的に沿って、臨床現場での教育を重視した管理栄養士養成などの計画が実施され、大学院教育の改善・充実にある程度貢献している。</p> <p>特に、臨床研究を主導できる管理栄養士の育成については、大学院生の研究業績数がある程度向上するなどの成果が得られている。</p> <p>今後も修士課程と博士課程を一貫させた教育プログラムとする工夫、実習施設の確保、他領域との連携、評価方法について改善・充実に図ることにより、成果を上げることが期待される。</p> <p>情報提供については、プログラム内容や取組等がホームページで公表されている。</p> <p>Ph. D. 臨床栄養師の養成については、今後さらに多くの修了生を輩出することにより、波及効果が期待される。</p> <p>支援期間終了後の大学によるプログラム継続の姿勢はある程度示されているものの、取組の内容については、更なる充実が望まれる。</p>
<p>（優れた点）</p> <p>臨床に強い管理栄養士で、かつ研究能力を有した人材育成を目指したことは、地域ケアを担う Ph. D. 臨床栄養師養成の教育モデルとして評価できる。</p> <p>（改善を要する点）</p> <p>修士課程と博士課程を一貫させた教育プログラムとする工夫、多くの修了生を輩出した上での評価方法の確立など、地域ケアを担う Ph. D. 臨床栄養師養成の更なる具体化に向けて検討が望まれる。</p>

組織的な大学院教育改革推進プログラム事後評価
評価結果に対する意見申立て及び対応について

意見申立ての内容	意見申立てに対する対応
<p>「改善を要する点」 <u>修士課程と博士課程を一貫させた教育プログラムの再構築</u></p> <p>【意見及び理由】 当該教育プログラム履修者の一期生が 21 年度初めて前期博士課程を修了し、現在 3 名の後期博士課程への進学者を輩出しました。後期博士課程在籍の学生は、第一線の高次機能病院で実地臨床栄養に取り組みつつ、当研究科内の基礎的研究室との共同研究で基礎実験にも着手しています。当プログラムの目標である、博士号を有する臨床栄養師を輩出する過程として、順調に推移していると考えられます。当プログラムは実施後 3 年であり、学位の取得には一定の年数を要する点をご考慮お願いいたします。</p>	<p>【対応】 以下の通り修正する。 <u>修士課程と博士課程を一貫させた教育プログラムとする工夫</u></p> <p>「実施(達成)状況に関するコメント」 <u>修士課程と博士課程を一貫させた教育プログラムとする工夫</u></p> <p>【理由】 修士課程と博士課程を一貫させた教育プログラムとするための工夫が、報告書では十分に示されておらず、教育効果を更に検証し、改善することにより、成果の向上を期待した指摘であり、上記のとおり修正する。 また、「実施(達成)状況に関するコメント」に同様の記載があるため、併せて修正する。</p>